



四季彩

八景中学校だより
2020. 5. 22
第 1 号
三田市立八景中学校

再スタート！

新入生 212 人を迎え、全校生徒 526 人がそろって始まった今年度。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今も臨時休校を余儀なくされています。これまでは登校可能日も設定できませんでした。分散登校ではあるけれど、今日みんなが集えたのは、とても大きな一歩です。これから、安心して登校できる学校にしていくためには、生徒と家庭と地域と学校が、互いを思いやり、手を携えて歩いていかなければと思います。

今年度の学校教育目標は、「自立して目標や夢の実現に挑戦する生徒の育成～自立・夢・挑戦～」です。確かな学力を身につけ、豊かな心を育み、ともに歩み成長していく生徒たちをしっかりと支えるために、また安全・安心で魅力ある学校づくりのために、教職員一丸となって取り組んでまいります。なにとぞ温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

教職員紹介 ～よろしくお願ひします～

Web 上では、削除しています。

配布している「学校だより」をご覧ください。

登校日に合わせてお出迎え

5 月 20 日まで殺風景だった花壇が、元気に華やかになりました。登校してくるみんなに、少しでも穏やかな気持ちと元気を与えられたらという思いから、タイミングを合わせて作業していただきました。真っ赤なサルビアをチョイス。サルビアの花言葉は、「尊敬」「知恵」「家族愛」、赤のサルビアは「燃える思い」です。この花壇には、



そんな思いが詰まっています。新型コロナウイルス感染症対策の中、いつも以上に大変な作業だったようです。学校は、様々な方の協力によって支えられています。

ピンチをチャンスに変える力を！

「雪見だいふく」というアイスを知っていると思います。アイスは暑い夏に食べるものという考えが一般的だった頃の話です。1981年に「冬でも売れるアイス」を作りたいという強い思いから生まれたそうです。アイスを餅でくるんだ大福餅のような形が特徴のこの商品は、菓子メーカーのロッテが研究開発を重ね、冬でも食べたくなるように様々な工夫がなされています。まずは、冷凍してもかたくなならない「ぎゅうひ(餅のような部分)」を開発して柔らかい食感を実現し、アイスは餅に合うようによりクリーミーに仕上げたそうです。また冬に販売するのだから、パッケージには暖色系の赤色を採用し、温かくほのぼのとしたイメージを作ろうと意識したそうです。その結果、「冬にアイスは売れない」という常識を破り、大ヒット商品となり、まさに「アイスは夏」という固定観念を打ち破りました。

私たちは気づかないうちに、「これはできない」という思い込みを抱いているのかもしれない。しかし発想の転換と工夫があれば、その枠から飛び出すことができます。誰もが無理だと思っていることにこそ、新たな可能性やチャンスがあるのです。

そのために必要なことは、考えることを楽しむ力であり、当たり前疑問を感じる力です。その力のスイッチは、だれもが持っています。興味や関心を抱くことです。

学校生活が昨年までに経験してきたものと大きく変わっている今だからこそ、私たちも変われるときなのです。一人ひとりが、ピンチをチャンスに、弱点を強みに、不可能を可能にできるよう、互いに励ましあっていきましょう！

《学校教育目標》

自立して目標や夢の実現に挑戦する生徒の育成 ～自立・夢・挑戦～

《めざす学校像》

- 活気に満ち、規律ある学校 → 気持ちのよいあいさつができる学校
- 学ぶ環境の整った美しい学校 → 丁寧にそうじができる学校
- 教職員が意欲的に研修し、指導力向上に努める学校
 - 学び続ける意欲と行動力のある教職員がいる学校
- 家庭・地域と連携し、一体となって取り組む学校
 - 保護者・地域の思いに向き合い、信頼と支援が得られる学校

《めざす生徒像》

- 夢や志をもつ生徒
- 思いやりを持ち、互いに認め合い高め合える生徒
- 自ら考え判断し行動できる生徒
- 自分や八景中学校に誇りをもつ生徒

【中学校区共通目標】 人も自分も、学校もふるさと大切にできる子